

## 平成31年度第1回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 平成31年4月17日（水）18:30～20:10

【場 所】 浜益支所庁議室

【資 料】

- 1) 会議次第
- 2) 平成30年度 地域自治区振興事業実績調書
- 3) 平成31年度 主要施策の概要【浜益区関連】

【出席者】 8名（15名中）

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
会長	宮田 勉	○	委員	三上 正信		委員	渡邊 真奈美	
副会長	大久保 満彦	○	委員	辻 カヨ子		委員	大浦 浩	○
委員	寺山 広司	○	委員	羽立 裕子		委員	徳地 克実	○
委員	門脇 弥	○	委員	岸本 紀子	○	委員	石川 宗	
委員	小田 則貞		委員	中元 義晴	○	委員	瀧 勝明	

（支 所） 松田支所長、成田市民福祉課長（併 浜益生涯学習課長）、  
宇野市民福祉課保健福祉担当課長（兼 はまます保育園長、浜益国保診療所庶務課長）  
地域振興課 袴田主査、柿崎主査

（事務局） 佐々木地域振興課長、藤巻主査、須田主任

（企画経済部） 中西次長（厚田浜益担当）（扱 企画課長）、企画課 三上主任

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
  - ① 平成31年度浜益支所体制について
  - ② 平成30年度地域自治区振興事業の実績について
  - ③ 平成31年度主要事業の概要【浜益関連】について
- 4 協議事項
  - ① 地域振興等のアイデアについて
- 5 その他
- 6 次回の開催日程について
- 7 閉 会

## 1 開 会

### 2 会長あいさつ

#### 【宮田会長】

今年はずっとより好天が続き暖かな日が多く、農家にとっても、浜にとっても今年はよい年になりそうな気がしている。

先日、ホタテ稚貝の出荷作業の話聞く機会があった。稚貝の出荷作業は、私たちが熟睡している真夜中に船で出港し、稚貝が入ったカゴを引き上げ、4時から5時頃には帰港、すぐに稚貝をトラックに積み込み、遠路、猿払方面に運び、その日のうちに前浜に撒かれるとのことである。鮮度が勝負のこの出荷作業は、甲板員やいわゆる「陸廻り」、食事の賄い等々、多くの人々によって支えられていると聞いた。今年の稚貝はへい死も割と少なく、順調だと聞いており安心している。

### 3 報告事項

- (1) 平成31年度浜益支所体制について
  - ・ 浜益支所長から今年度の支所職員体制について報告。
- (2) 平成30年度地域自治区振興事業の実績について
  - ・ 資料に基づき、各担当主査から事業実績について説明。
- (3) 平成31年度主要事業の概要【浜益関連】について
  - ・ 資料に基づき、浜益区関連の主要施策の概要について説明。

### 4 協議事項

- (1) 地域振興等のアイデアについて
  - ・ 2名の委員から提出があった「地域振興等のアイデア」について、提出委員からの説明を受けた後、個別の内容について全体で協議した。

#### 合宿所の新設（勉強合宿・スポーツ合宿）について

#### 【大浦委員】

- ・ 浜益の気候の良さを活用して、冬期間は厳しいが、合宿場ができるとスポーツ学習のほか勉強合宿ができないのか。新設と書いているが、既存の施設を活用しても良い。人を呼び込めたら良いと思う。

#### 【松田支所長】

- ・ 勉強合宿のイメージは。

#### 【大浦委員】

- ・ 北海道ではあまり馴染みがないが、本州、特に関西で実施されていると聞いている。夏休みは暑いので、奈良の山奥に行って勉強をすることを大手の塾が実施している。北海道は本州より涼しいので、浜益に宿泊してもらおう。幸い、田舎に来ると遊び場がないので、集中して勉強できる。モデルになればと思っている。

#### カフェ・ガルの活用について

#### 【大浦委員】

- ・ とても良い施設なのに閉鎖された。中学校内でも話し合われたが、勉強合宿などに利用し、群別のスポーツセンターも絡めて、人をうまく呼び込めないものかと思う。カフェ・ガルでは食事をする場所として活用すれば良い。

【徳地委員】

- ・旧適沢コミセンは、この後の活用方法を何か考えているのか。

【地域振興課 佐々木課長】

- ・基本的には、本年度の利用は未定となっているが、3~4ヶ月位の期間、お試しで開けることは可能である。開けるとランニングコストが生じるので、数か月分程度の予算は準備している。ただ、誰が何をするのは決まっていない。
- ・遊休施設を活用することも浜益区の課題の一つと考えている。人口も相当減少しているので、その中でどの活用となると施設規模と利用者のバランスがあるので、区外の方々とどう繋がっていくかがテーマだと思っている。

【大久保委員】

- ・建設当初、写真倶楽部でよく利用していた。例会や写真展示で利用していた。そのような活用方法もあるのではないか。

【大浦委員】

- ・場所的にロケーションが良く、建物自体良いので、閉鎖のままはもったいない。浜益に人を住まわせて人口を増やしたいのか、そうではなく、シーズンのみ来る人を見込むのか、両方の観点があるかも知れないが、いつも開けているとランニングコストが嵩むので、例えば、7月下旬に時間を区切って貸し出すなどできないか。

【宮田会長】

- ・利益が上げられるかがポイントであり、そこが問題である。

【大浦委員】

- ・常時開けていると難しいので、予約が入った時だけ開けることができないか。

【地域振興課 佐々木課長】

- ・開館に当たっては、浄化槽点検などシーズンインに掛かる経費が発生する。

【宮田会長】

- ・支所・本庁含め、本州の方にリース、買い上げてもらうなど情報発信する話はあるのか。

【松田支所長】

- ・買いたいという人はいると思う。使わないとダメになってしまうので、昨年までガムで頑張ってきた部分をなるべく期間を空けないよう、何らかの形で考えたい。なるべく活用することが我々も含め地域で目指すところである。
- ・例えば、コワーキングスペースと簡易宿泊所を営業したいという提案など、2、3、問合せもあったが具体的ではなかった。その辺りは慎重に検討していかなければならない。何とか活かしたいという気持ちは、我々も持っている。

特養あいどまりと保育園の併設について

【大浦委員】

- ・先般、話題になっていた中学校の敷地に保育所を移設する話だが、中学校としては、かなり難しいと考えている。色々な制約があり大変である。中学校内では、あいどまりの場所に保育園を移設したらどうかと話をしていた。高齢者と園児が一緒の空間にいる時間があると案外良いことがあるのではとの発想である。

川下・柏木コミュニティセンターの新築について

【大浦委員】

- ・現在の建物は使えないとしても、同じ場所に規模を縮小し、建設するのが良いと思っている。

・川下・柏木コミセンは災害時にも利用するので、現在の場所では難しいとの話だった。その場所は津波には対応できないが、それ以外の災害には活用できる場所である。つまり、すべての災害に対応できる場所に建てるということは、浜益区では大変難しく、無理があると思う。

【地域振興課 佐々木課長】

- ・川下・柏木コミセンの関係は、一度この協議会で検討案が示されたと聞いているが、確定ではないと聞いている。
- ・今年度、企画課で調査費の予算を持っていて、しっかりとどういった方法が良いのか見極めていくとのことである。特に大浦委員が言っているような、我々がリサーチできていなかった意見等、地元的意思を浜益支所、地元として今一度聞いて協議して、より良い形にしていきたい。100%はなかなか難しいが、よりベストにできればと思う。

【企画経済部 中西次長】

- ・前回お示したたたき台は、考えられる可能性として話をしたところであると認識している。地域の皆さんが必要とするものを作っていきと認識している。たたき台では、保育園の場所など色々な話が出たところであるが、それらを含めて地域の皆さんが、現実何を求めるのかを支所ともしっかり連携して、早めに次の方向性を見出せるよう、検討していきたい。

【中元委員】

- ・昨年川下コミセンが利用できなくなったので、代わりに浜益コミセンを利用することとなったが、例年、50名近い会員が参加していた自治会の総会に、今年は役員含めても20数名しか参加がなかった。
- ・高齢者は徒歩で浜益コミセンまで来られない。集会所は地域に必ず必要、地域の核となる場所である。津波の心配があるから高台だとか、津波のことばかりを考えていたら、とてもじゃないが何年経っても浜益の各地域に集会所は建設できない。高台に集会所を建設しても高齢者は徒歩で来られるのか。本当に建設する気持ちがあるのなら、地域の住民の集まりやすい場所に建設してもらいたい。住民の利用回数どうこうと言っているが、その条件を付けられると何も言えなくなる。これからますます過疎化が進行する地域では、必ずしも状況が良くなるとは言えない。建設する気持ちがあるのであれば、地域の住民と話をし、利用しやすい場所に建設されるのが、そこに住む我々の願いである。
- ・利用回数のことを言っているが、浜益村時代には、僅か7戸の集落にも集会所を建設した。それは、そこに住む方々のための集会所であるから。高齢者が徒歩で行くことができる場所に建設したということ。川下であれば、現在の場所が一番である。現在のコミセンを解体するのなら、その場所に建設して欲しい。柏木もそう思っているはずである。

【岸本委員】

- ・賛成である。

【宮田会長】

- ・浜益の場合、費用対効果だけで語れない部分もあるので、住民が利用したい場所に、住民が使いやすい施設を建設して欲しいと考える。

郷土資料館の資料整備、清掃ボランティアについて

【宮田会長】

- ・区民の財産である郷土資料館が、今月27日のオープン前に内部の清掃、資料の陳列作業などを予定している。区民のボランティア参加を呼びかけてはどうか。作業は25日木曜日、26日金曜日の10時からを予定している。参加者は、清掃用具、弁当、お茶などを持参し、清掃等を行うことを考えている。周知期間も短いので、委員の皆さんで都合のつく方は参加して欲しい。

【浜益生涯学習課 成田課長】

- ・例年、オープンは5月1日であるが、今年は4月27日とした。その前の4月25日、26日に内部清掃と準備を行う予定である。オープンに併せ、期間展示も予定している。照明もLEDに変更したので、明るくなっている。

## 「温泉公園、陣屋に桜を、沿道に花を」について

### 【宮田会長】

- ・平成21年、東京・札幌・小樽の各浜益倶楽部の支援を受けて、区民の参加で温泉公園、群別のスポーツセンターに桜を植樹したが動物の食害や枯れてしまうなど、本数が減ってきている。さらに、有志の手で保存されている荘内藩陣屋跡なども含めて、桜を植えて景観を整備してはどうか。陣屋跡については、今後、陣屋跡研究会と相談して了承が得られれば、桜の植樹について検討したい。現地を調査し、植樹の数やその時期、手入れの方法など専門家の指導を得ながら保存し、後世に残したい。
- ・柏木自治婦人会では、既に毎年実施しているようであるが、他の地域でも国道沿いの花を植えるスペースに花を植えたり、フラワーポットを置いたりして、沿道を飾ってはどうか。事業主体は地域協議会や陣屋跡研究会を考えている。予算は基金と市の一般財源が充てられれば良いと思う。

### 【浜益生涯学習課 成田課長】

- ・今の件については、研究会の皆さんと地域協議会とのパイプ役をさせていただきたいと思う。

### 【地域振興課 柿崎主査】

- ・今年3月、ネイチャーガイドに荘内藩陣屋と八幡神社を見てもらったが、北海道で通常ここにはあるはずがない樹木が育っている。荘内藩の人々が持ってきて植えたものではないかと言っていた。
- ・長い歴史がある場所なので、単純に桜を植えるのが良いのか、よりストーリー性を考慮するべきなのかも含め、研究会の皆さんと話し合っ進めたい。

### 【宮田会長】

- ・研究会メンバーとも相談していないので、今後、色々と連携を取りながら、進めていければと思う。
- ・植樹するとなれば、区民の方々に参加してもらい、一緒に植える、そのようなことからスタートして、区民参加の協働作業、その部分からも意義があるのではと思っている。

## 支所3階旧議場の有効活用について

### 【宮田会長】

- ・支所庁舎は、多額の予算をかけて建設されたが、合併後、議場をはじめ多くの部屋が使用されず、遊休化、あるいは物置状態となっている。例えば、郷土資料館にある行政資料を一括保存展示する「行政資料室」や、支所庁舎内に飾られている様々な絵画、写真、ブロンズ像等を展示する「展示室」としての活用はどうか。
- ・旧議場の有効活用について、一步踏み出すために、専門部会を立ち上げて集中的に相談してはどうか。コンサルタントのアドバイスを受けることも必要に応じて検討し、1～2年以内を目途に実施できれば良いと思っている。
- ・市に対して地域協議会から提案することとして、コンサルタントの委託までは基金を充当しても良いのではないかと考えている。
- ・また、絵画展、写真展、ミニコンサートでは、自衛隊の音楽隊、市内のコーラスグループ、厚田地域おこし協力隊の今野さんなどを招き、落語や漫才なども開催する。浜益コミセンで開催が難しい長期間のイベントなどもできれば良いと思う。

### 【浜益生涯学習課 成田課長】

- ・行政資料については、旧浜益中学校に歴史的な資料を置いているが保存環境が良くないので、保存状態の良い場所に移し換えることが課題である。庁舎3階が利用できるならば、良いと思う。ただ片付け作業が必要なので、かなり壮大なプロジェクトを組まなければならない。

### 【地域振興課 佐々木課長】

- ・旧議場をはじめ、支所庁舎の遊休スペースが非常に多いと感じている。会長と同じ問題意識を持っている。支所としてもこの課題を検討したい。何よりも今収まってしまっている物置状態が有効活用の足かせとなっていると感じているので、そこから考えていく必要があると思っている。

【宮田会長】

- ・支所3階には旧議場以外の部屋もあるが、それらも含めて地域協議会で話し合うべきかどうかについては、若干疑問もある。

【大久保委員】

- ・一般の方は、3階にそのような議場があるのが分からない。あまり見たことがない。通常使用している場所は見ているが、それ以外は見えて回ったことがない。

【地域振興課 藤巻主査】

- ・議場以外は、旧議員控室も含め、保健師の事業など結構な頻度で活用されている。

【地域振興課 佐々木課長】

- ・地域協議会で活用を決定するというよりは、先ほどの「展示室」のアイデアのように、色々とアイデアをいただければ有り難い。行政財産なので、何にでも自由に活用できるという訳ではないが、色々な意見をいただきたい。

【寺山委員】

- ・庁舎など公共の持ち物を使うとき、我々がアイデアを出しても決定権は石狩市にあるのか。本庁がダメだと思ったらダメなのか。支所が良いと思ったら大丈夫なのか。

【松田支所長】

- ・本庁も支所も石狩市役所であり、一つの組織としてトータルで判断することになる。
- ・あれもダメ、これもダメということにはならないと思うが、逆に、あれも良い、これも良いのですべてやろう、ということにもならないと思う。そういった中で何が最も望ましいのか、その議論の組み立てが必要であると思う。

文化の香り漂う地域づくりについて

【宮田会長】

- ・子どもから高齢者まで誰もが参加可能な、(仮称)区民楽団を立ち上げ、2、3年後の発表会に向けた挑戦をしてはどうか。具体的には、浜益小劇場のような活動が理想である。指導者は、地域おこし協力隊員として全国から募集してはどうか。楽器調達の財源には、ふるさと納税を活用してはどうか。
- ・楽団のイメージは、小学生の鼓笛隊や学芸会での音楽発表のようなものであり、本格的なプラスバンドは想定していないが、将来的にはミニプラスバンドくらいまで成長できれば最高だと思っている。構想づくり、参加者募集、指導者の招致で概ね1年程度、活動開始は2年後を目途、という夢を持っている。

全体を通じて

【宮田会長】

- ・本日は問題を投げかける程度に留めておきたい。今後も皆さんからの提案をお待ちしながら、その中で検討できるものは徹底的に話し合い、進めていきたいと思っている。
- ・地域協議会で提案されたすべてが実現するとは限らないが、予算、その他色々な制度上の制約をクリアしながら、区民のためになることができれば良い。
- ・今後の協議会では、もう少し深く掘り下げた内容を話し合っていきたい。ただし、提案されたすべてに時間をかけて話し合うのは無理があるので、何点かに絞って、将来、形に残せるものを少しずつ前進させていきたいと考えている。

## 5 その他

(1) 浜益中学校生徒による産直販売の実施について

- ・大浦委員から資料に基づき情報提供。

#### 【大浦委員】

- ・ 4月24日に出発する修学旅行において、ふるさと浜益を誇りに持ってもらうと同時に、浜益を売り込めないかとの発案で企画した。
- ・ 修学旅行で訪れる神奈川県横浜市の横浜橋通商店街において、中学3年生7名が、米やじゃがいも、タコなど、浜益の特産品を販売、浜益の魅力をPRする。収益金はダルニー奨学金に全額寄付し、貧困の国の子どもたちの役に立てられる。浜益Tシャツと法被を着て活動する。地域おこし協力隊の柿岡隊員も参加する予定である。

#### (2) 議事録の作成方法について

- ・ 事務局から、記録方法は「要点記録」とし、確認方法は「会長から確認」していただく旨を提案し、了承。

#### 6 次回の開催日程について

- ・ 第2回協議会は、今のところ6月上旬を予定しているが、後日改めて連絡する。

#### 7 閉 会

令和元年7月11日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 宮 田 勉